宗像

毎月一日発行
定価 一年 送料共500円
発行所
宗像大社社務本局
福岡県宗像郡玄海町
電話 神湊26番

三百年ぶりに
五月祭 復活 斎行

先月号で五月祭復活についての趣意書を発表したが、去る五月五日に復活第一回の祭儀が盛大に斎行された。慶安年間の記録以来実に三百余年ぶりのことであった。

五月に入ってからの約二十日間は連日の雨で、当日も天候が危ぶまれたが奇しくも朝になってから雨が上った。

実行するかどうかを、一同で相談し、朝八時には「小雨決行」の綫を打ち出した。

神湊の浜宮には続々と参列者がつめかけた。郡内の神職の方々も一番にかけつけた勝浦年毛神社の宮司永島俊一氏をはじめ、上西郷大森神社の宮司伊東聡氏、富士原愛宕神社の宮司野口正夫氏、鐘崎織幡神社の宮司花田貫一氏、田島氏八満宮の宮司宗像辰美氏ら五名と津屋崎浪折神社の総代さんが参加された。夫々二十五社程受持っておられるので大凡百社分近くの神籬（ひもろぎ）が揃ったことになる。郡内にはおよそ百五十社程の神社がある。それに専任の神職さんが十三人居られる。（宗像大社と宮地嶽神社を除く）そのうち病気の方などを除いて之等の方は参加して下さった訳である。何れも「子供祭」其の他の行事を持っていて大層お忙しい中を繰り合わせて下さった。

早朝、浜宮の社前には十二本の紅白の御長手（おんながて）の長旗が飾られた。折からの微風にゆるやかにはためいて美しい。

十時半　浜宮の石の御社の前に奉仕神職七名をはじめとして百五十人ほどの参列者が居並んだ。御社の両側には全郡の神社を象徴する十二体の神籬（ひもろぎ）が立てられて荘厳な祭典が営まれた。神饌の中には粽があり、神酒には菖蒲が刺し立てられて季節感が溢れた。

神職全員の玉串拝礼に続いて、氏子会長、神湊の氏子総代　江口の氏子総代、農協の代表その他の氏子総代さん達の玉串拝礼が続いた。

十一時半、浜宮の祭典終了後、各神職の捧持する神籬が整列して五月宮へ神幸式を行った。前駆の御長手がたなびく。釣川口の皐月橋を群行する神籬の神幸列が絵のように美しい。

五百米歩いて五月宮に着いた。五月宮はお社はなく、榊を植えて神籬としてある。その両側に捧持して来た神籬十二体が先のごとく刺し立てられた。

やゝ薄陽さえ射して来た五月宮の祭典中、空には雲雀が囀っていた。波一つない海が遥かに霞む。

祭典が終ってから神前に莚を敷き並べて、神社で準備した直会の食事が運び込まれた。

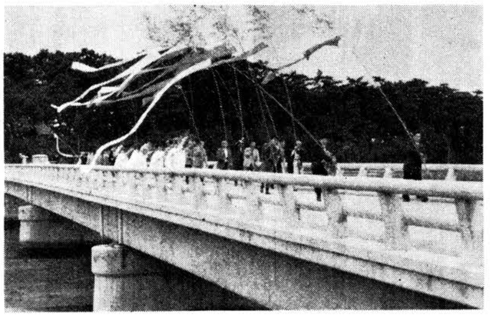
NHKテレビの報道員が撮影の合間に

「神様の前で参列の皆さんが神様と一緒に食事をされる所を始めて拝見しました。これが本当のお祭りごとというのでしょうなあ」

と感心していた。

ともあれ、まことに素朴な姿ながら、郡の総氏神様のもとに郡内の神様を一緒にお祭りして、郡内の総意をあげて行う春の大祈願祭はかくて実現した。秋の「みあれ祭」と共にこれで二つの大祭が復興されたことになる。これを年々盛んにして行くと共に、新時代の信仰を熾んにし確立して行きたい。

終りにこの度の「五月祭」復興にあたり関係各方面の全面的な御理解と御支援を頂いたことに対して厚く御礼申し上げる次第である。



宗像大社御用達
神輿 祭具 装束
松島神輿製作所
京都市下京区北小路通新町西入
電話 (37) 八八六九番
振替口座京都一五八九一番

論説

人間の慾望と抵抗の心理

フランス大革命は欧亜史上に於ける特異な劃期的な事件である。ダントン、マラー、ロビスピエール等の革命指導者は偶発的に起って革命を指導したのではない。王朝の政治と社会の現状に永い批判の眼を向けて革命に踏み切って起ち上ったと史家は評している。政治と民衆の動向に多くの矛盾を見出し、その認識に錯誤がないと自覚したとき現状打破の強烈な良心の至上命令を確信する。それが冷静な革命指導者の実態である。

一国の政治形態に大きな変革を齎らすほどの結果とはならないが、我が国の江戸時代に起った累次の百姓一揆を考えてみるとき、人間多数の慾望が不当に否もっと理不尽にふみにじられた一刹那、民衆の憤激とそれを是なりと確信する指導者との倫理的羈絆の破却が素因である。事の大小は別として指導者はダントン等と同じように一応は冷静批判の場を持ったにちがいない。生命を賭して蹶起するには封建の時代は特に罪九族に及ぶ最悪事態を覚悟した上のことで、市井の無頼の徒の無反省な軽挙と軌を一にするものではなかったと判断する。

革命の素因と云うべきもの、特にその遠因と考えられるものは人間の慾望阻止或は無視にはじまる。百姓一揆の場合一応為政者の苛斂誅求というが、米麦一合の上納を加減するか否かで大争乱か否かの境目がある。為政者が民衆の生活に対する自計、否生への慾望を洞察する明智があれば、一合を譲ったであろう。これが政治の妙諦である。その一合が流血の惨事を未然に防ぎ平穏な社会として史上の無事故を綴っている。この人間の慾望の限界は僅少の目盛の差と言える。

民衆の激昂は所謂群集心理を誘って、自制心の破却にまで凝結する。指導者は一応冷静に内省しても慰撫する理論の根拠を持たなくなる。やろう。生命を捨てて。これが封建の時代に起る政治反抗の定石であった。反省破却の結論であった。

現代の政治的社会的斗争は全くその根底に相違がある。前時代的搾取型の資本家は既に大企業には見当らないが、小企業には往々にしてこの種の人物がいる。後者の場合は問題を措く。大企業の指導者が多数の従業員の抵抗の心理を把握して、階級的な利害斗争を避けようとして企業運営の不利を承知の上で次々に物質的要求に応じても、断頭台上にあがる決意を必要としない指導者は労働者大衆に呼号して群集心理を巧みに自制心支配し刧破の方向に扇動の口実を掲示する。これが大企業ストの実態である。一般追従者は慣習的制約に痲痺状態に陥り、全く反省を失う。遂には抵抗が生活の根本的自力と誤認し、集団に頼り組織に依存して良心の至上命令など片鱗も意識していない。

抵抗の形態とその心理は社会組織なり、その制約の強弱によって異っている。時代思想の変化は人間を進歩させて権利の自覚を呼び起したかもしれないが、一面権利の濫用による物質偏重、利害打算の生活理論を生んだ。

人間の慾望に際限はない。然しそれは人間的訓練によって即ち教育によって制禦し得るものである。物質偏重でなく精神尊重によって解決出来る問題である。それは多数の精神的な合理的な幸福のために説かるべきことで、為政者指導者のご都合主義であってはならない。もしそうだとすれば、いつか悪傾向を累積して爆発し革命の奔流となる虞もある。

ストのない事業経営は如何にすべきか。それは口先の協調ではだめ。身を以って実践する指導者の高度の倫理観宗教観が指針とならねばならない。自ら自己に精神的肉体的の苦汁を与えて、大病を押して四国巡礼に風雨の難路を踏破した或る社長は、実践からにじみ出た感謝の生活を毎日の朝礼に説いている　飽食暖衣自らの利益追求をのみ事業の目的とし、巧言令色をもって従業員を駆使する経営者は、メツキが剥げて多数の不信を生み抵抗の心理を助長するに終る。八時に出勤して八時半に重役会議を開いて重要問題を検討し、運営の基礎を高度の目標に置く会社にストはない。斗争の旗をかざさしめる群集心理の支配はない。僅少の過剰搾取を中心に開かれる重役会議などは、前時代的のものである。

互助親和の社会実現は、慾望の抑圧でなく指導者自身が苦労を積んで己れの欲せざるところを人に施さない信条の実践にある。

責任役員会開かる

五月二十日、宗像大社責任役員会が社務所に於て開催された。

当日の議事は昭和三十七年度決算について慎重に審議が行われた。三十七年度予算に対して、決算は丁度見合っており出席役員全員異議なくこれを了承した。

尚、これより先、五月十八日に監査会が催されて、会計監査が行われた。

阿蒙少言

現代政治は大衆の中の最も高い叫び声に追従する。それは最大多数の最も強い要望とは限らない。曰く所得倍増、曰く人づくり。いづれもジャーナリズムの厳しい批判をうけて雲消霧散。就中人づくりは国家民族が永遠に捨てられない絶え間なき願望であり、政治の重大使命である。政治ムードは女性の装身ムードと同じか。次は何が出てくるか。楽しみに待ってはいない。○陽春の一夜を老妻と共に奈良の観光ホテルに宿る。女中はじめ働く人達の態度が他の観光旅館に見られない訓練と親切が目につく。案内の友人にたづねたところ、社長が強い信仰を事業経営の命脈とする大変な人物、重病をおして四国巡礼の乞食行脚を記録した遍路日記を渡された。毎朝主宰する各事業所の朝礼を回り、人生の意義を説き新しい苦労と発展の信条を語る。神仏への徹底した信仰、厳しい自己修練、それが従業員に働く喜びと親和協力の指針を与えている。感銘深く拝読した　○古い職員は豊富な経験を持ち職場にとっては大切な人である。忠実に責任を果してゆく人は貴重な存在である。「古い者は排斥される、立派にやっているのだが退却せねばなるまい」と責任感稀薄の怠慢氏は最後に女房をだます。それでどこへ行っても幸福な勤めが出来るだろうか　○能力の限界を超えた彼方に、尚人間は何かを為し得る力を残している。そこに神仏を捜索し信仰心を自覚する　○或る陶芸の大家が高弟三人に命じて作品を求めたところ、一人の作品が芸術的良心を欠き物質慾に捉われているのを見破って破門した。一道精進の心底は厳しい○若葉青葉の色鮮か、山野の恵む清気を吸って血圧も病気も忘れ、くだらぬ憂悶を吐き捨てることだ。

（白　雲）

第二十六回　宗像大社献詠歌会詠草

五月三日　於社務所　詠草到着順

福間　井原　元彦
「王将」を器用に唱ひ老社長若き社員をぐんと引付く

内殿　岩崎　和荘
色々な地方選挙の時は来て野山に花が咲き揃ふかな

福岡　江崎　琴子
ゆかしくも自然の庭のみやびなる静けき部屋に琴の立てあり

村山田　吉田佐一郎
進級の祝するとて楽しげに皆いそくとつどふ学童等

田熊　小野角次郎
卯月宵夕べの庭に師を訪へば鶴のうごきに電灯洩れ来る

〃　小野　花居
うす日して許斐の山の春浅く峯より晴れて紫の萌ゆ

東郷　藤崎　辰子
徹すれば強きものなれば道ひ出でし毛虫は路に筋を描きおり

内浦　長畑　房江
春になりガラス戸の汗点の目立つをば身動かぬ身は只に見てゐる

小倉　大和　虎雄
絵葉書に旅の便りを送るべき故郷の父は既に在さず

南郷　天野　健一
斑猫のねむれる桜に二人して春の日ざしに新茶めでつゝ

吉武　高山徳七郎
降る雨に乾く間のなきモンペはき嫁は急ぎて野良に出で行く

津屋崎　麦野　時雄
転勤の教師を送り迎ふると木蓮の花校庭に咲く

〃　勝田　光一
人の為尽すものなき晩年を道々落ちたるガラス拾へり

戸畑　山磨　昌子
止りしまゝ幾年越しか旧式の柱時計が客をまどはす

江口　辻野　開造
ゴルフ場山肌ぬぎて更生の息吹みなぎる土の香ぞする

戸畑　花田　道子
霧深く雨に暮れゆく寮の街水銀灯が遠くににじむ

宮田　北原きみ子
嫁きし娘が日頃愛せしガンデの花春遠きまゝ蕾もつけ得ず

福間　中村　吾郎
水際の萌黄の草をゆすぶりて土盛り上ぐるものに声あぐ

宮田　片山　一
街灯の光る限りは土濡り猫ゆくりなくそこ歩みゆく

田島　力丸　登
泥んこの畦道走る選挙カーゴマ塩頭に春雨ぞ降る

勝浦　永島　計七
選挙戦酣わにしてたそがれの街角にけわし遊説隊の声

戸畑　伊規須ゆき
さまよひてたどりつきたる蔵司袖に草の実つきしを知らず（都府楼）

吉田　占部　由久
くれなづむ菜の花の野へ嫋々と広寿山寺の鐘の音流る
（小倉足立山麓にて）

東郷　安部　重郎
泥絵具塗りて鄙びし古雛の素朴な姿懐しく愛づ

〃　安部　静子
西瓜苗多く植えたり今夏には遠き孫等の来るとのたよりに

原町　中村　幸
暮れなづむ孔大寺山をまなかひに白木蓮の匂ひはやさし

戸畑　田中ハツセ
東海を始めて旅す吾子の眼に富士の姿はつひに見えざり

東京　永島　潤
山吹の華枝に花の色冴えて庭の隅にも春は深みぬ

福岡　林　まつえ
新幹線が流行言葉となる程に国の躍進思はす道々

宮田　片山　朔子
確立もなし得ず無為と曖昧に生き来し我を時に嫌悪す

田島　吉武　俊次
機上よりこよなき眺めと見る吾に孫は恐しと抱きつくなり

勝浦浜　永島　文子
春泥に鼻緒切らして居る吾に中年の主婦声かけて過ぐ

香椎　桜井　秀
根の棘が鋭く春を刺す濫褸のごとくこころうづく日

〃　桜井　ツ子
新芽けむる雑木林にひかりつゝ生命はぐくみて逝く春の雨

沖ノ島　前田裔之助
いつまでも任まはせてほし沖ノ島小鳥や月や花を友とし

吉武　山下しづえ
御神授の筆の穂先は冴ゆれどもわれには腕のなきをかなしむ

宗像談話室　忍無辱

テレビ映画で「明治天皇と乃木将軍」というのを見た。国運を賭けた大戦争を通じて、日本人でなければ分らぬ感激を覚えた。そして乃木将軍の飽く迄も謙虚な心情が描き出されていて、見る者の心を打つものがあった。至上命令を完遂した将軍が自分の功を誇らぬところが良い。そして吾が子が戦死したことによって国民への申し訳が立つ、と述懐する所に泣かされた。

自分を誇らぬこと、つまり何事につけても自慢をしない、ということは我が国の美徳の一つと我々は教えられて来た。これを近頃はＰＲの時代という訳で、要らんことに迄自分の特技か何かを自慢しひけらかす輩が多い。売り込みも度を過ごすと醜い。その醜いものを意識しないで何時迄も自慢しているいやらしい奴がいる。どうかすると毎日の様に何かを自慢している。優越感を感じて得意になっているらしいその人の顔を見ると、終には哀れになってしまう。

馬鹿だなあ、と思うが、その人の性癖でもあれば仕方がないと思って周囲があきらめてしまうということになる。

仲間同志だけならいい。あゝ又始ったと思うだけである。ところが、そんなのに限って何処へ行っても「自慢せずんばやまず」の性癖をあらわすものらしい。

更に悪いことには、威張りたがるその御仁が、たまたま何かで失敗することがある。すると、その時に反省すればいいものを、それを糊塗する為に余計な百万遍を並べ立てる。場合によっては自己弁護ほどきたないものはない。浅はかな弁解をするよりも黙っていた方がよいのに、と思う。

えらい人、というのは大抵寡黙な人が多い。一言口をついて出る言葉が金鉄のごとく、珠玉のごときを貴しとする。

これに反して、いつもべらべらと自慢たらたらまくし立てる者にロクな者がいない。そんなのを聞いているとロにチャックでもつけてやりたいと思う。

「忍べば辱しめ無し」という。どこまで忍耐できるものであろうかと、最近考えることがある。公憤の場合に公的な立場にある場合はさて措き、日常個人的なことならば大概は我慢してみようと考える様にしている。――危い危い。語るに落ちて自慢めいてきた。

さて、戦前の或る将校集会所で師団長がのたもうた。

「諸君、われわれはよろしく猥談をせねばいかん」

――と、将校連が笑った。

「笑いごとではないっ！」

師団長が一喝した。しんとなった。閣下の言葉が続く

「猥談をしている限りに於ては軍の機密は漏れない」

成る程成る程という声がした。

つまらぬ自慢話をする位なら猥談の方がよっぽどましかもしれぬ。但し、必ずしも猥談を奨励する意味ではないから特に念の為。

乃木将軍の大義名分が飛んでもないところ迄行ってしまったが、要するに、自慢高慢は馬鹿がする。余りみっともいいものではない。失敗を弁護するに至っては笑止の沙汰である。「百日の説法屁一つ」というわけで、失敗しても自分が悪いのではなくて原因が飽く迄も他動的なものであると強弁する態度は絶対に男らしくない。「忍無辱」を常に念頭に置いて人と融和して行きたいと思う。そこに我が民族独特の「義理人情お互い様」という美徳がはぐくまれてくるのではあるまいか。

柳の葉が五月の雨に光っている。自然だけはあやまたずめぐっている。気持よく一生を送りたいものだ。

宗像郡交通安全協会

優良運転者を表彰

五月十一日から二十日迄、全国交通安全運動旬間が実施された。その一環として宗像郡交通安全協会に於ては「優良運転者表彰式」を行った。

雨の五月十一日、宗像大社に関係者が参集した。先ず神前に於て交通安全祈願祭を斎行、続いて清明殿に於て表彰式が行われた。

今年表彰された運転者は最低七年半、最高十二年一カ月で、協会各支部より選ばれたのは左の十名である。

池野支部	池浦　豊	12年
田島〃	深田猪壮	9年7月
赤間〃	元岡久悦	7年
〃〃	田中文彦	12年
〃〃	出光茂夫	11年7月
上西郷〃	中村茂夫	11年5月
西鉄〃	山下　保	12年1月
〃〃	吉田浅美	11年7月
〃〃	湯浅政光	7年5月
〃〃	和田和巳	8年7月

表彰式が終ってから懇談会が行われた。ここで交通安全に対する貴重な心得や体験を聞くことができた。二、三を御紹介する。

○目的地迄他車より五分遅れるつもりで運転する。

○特に子供に注意する。

○不案内の所は交通標識を守る

○朝家を出る時気持よく出る様に努める。帰りの時刻を知らせて置く。

○車の流れに従うこと、勝手な運行をしない

○歩行者に「正しい歩行」の教育をしてほしい。

等であった。特に西鉄バスの場合は毎朝の点呼の時に

①、免許証

②、健康状態

③、車輌点検

を確認しているということで、このほかに運転従業員は「雑念」を振り切る努力をし、和やかな気分で運転するように心掛けているとのことであった。

交通事故について行政処分すらも受けていない優良運転者から聞いた数々の事柄は、すでに単なる交通訓ではなく、人生の指標ともいい得ることであった。

激しい雨の中を三々五々帰る人たちの後姿に若葉の色が泌みる様に映えていた。

六月祭事表

一日
一五日　**月次祭**　午前十時

三〇日　**大祓式**　午後五時

一年の前半期のうちに知らず知らず犯した罪や穢れを祓い清めて、あとの半年を清らかな心と身体で過すための行事。

神社神道の特質は「祓いに始まり祓いに終る」と云っても過言でない。そしてこの祓い清めることを重ねて「清く明るく睦まじく」暮すことが、我々祖先の示した生活訓であった。

事は簡単なことのように思っても「さやけく生きる」こと程難しい事はない。反省と備えのためにも「祓い」を重ねて日本人は生活する。

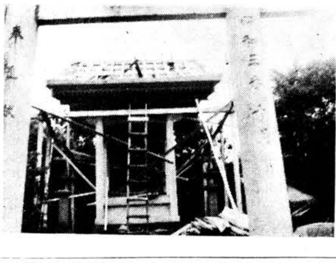
六月の交通訓

◎落ちつきなさい。

―宗像郡護国神社建設すすむ―

既報の通り四月に宗像郡護国神社の地鎮祭が行われたが、いよいよ建築が始まった。

旧田島部落の旌忠社跡に約二坪の社の礎が築かれ、その上に木の香も新しい白木が組み立てられて、凡そ七分通りが出来上った。



社地は大社のすぐ裏手にある田島小学校の校庭に隣接している。完成の暁には人々の心に、国難に殉じた英霊に対する感謝と尊崇の念を懐かせるであろう。将来の祭祀は永久に大社が受持つことになっている。総氏神様の神域に極く近い所に鎮座する護国神社の存在はこれ亦郷土団結の一つの象徴と仰がれることと思う。

社頭掲示板出来る

今まで社頭に祭事表や年中行事の解説を掲示していたが、この掲示板の用紙が風雨の際には飛んでしまうので、折角のものが無駄になってしまう事が屡々であった。

そこで此度お目見えしたのが写真の様な掲示板である。

屋根付で枠が朱塗り、黒板に白い字が映えて美しく一般に好評である。今までは、交通訓をこの掲示板の片隅に書いていたが、東参道に交通訓専用の掲示板をこれと併せて設置したので、御祈願を受けられた参拝者が車窓から眺めて心の糧としている。

ほんの一行たらずの文句が交通安全に役立っている事は喜こばしい。

四月の祭り
一日～三日　春季大祭
三日　王子神社例祭
十六日　織幡神社春季
廿九日　天長祭

出光新入社員参拝

去る五月十一日、出光興産九州支店の新入社員十二名が是久庶務課長と共に参拝した。まだ学校を卒業したばかりの若い人達ばかりである。社務所で職員から当社の由緒と、御神勅の示すところの国民道の在り方についての話等を熱心に聞いていた。

社務日誌抄

四月一六日　宗像警察署長外八名参拝。

一八日　小野権宮司、県伝習農場へ講演の為出向。

二〇日　新出光石油株式会社庭内社春祭、小野権宮司、斎藤権祢宜奉仕。

二一日　若松宗像会百五十名参拝。養父講師赴任す。宗像大社少年剣道部第三期生の報告祭。

二三日　氏八満宮春祭。

二四日　久保宮司、小野権宮司、宇都宮祢宜、門司の第七管区海上保安本部へ出向。

二五日　沖ノ島監視員佐藤市五郎退職。

二八日　五月祭神事打合せ、当社役員及び郡内神職外十五名出席

二九日　天長祭斎行午前十時、引続き新奨学生奉告祭執行。

三〇日　大神神社小方祢宜来社、出光興産姫路建設事務所長来社。午後より職員会。千葉宗像神社遷霊祭。

五月一日　楢根責任役員来社。

二日　千葉宗像神社鎮座祭の為宮司外四名上京。

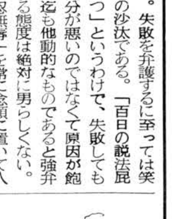
三日　杉本出仕赴任。農協総会清明殿に於て開催。

五日　五月祭斎行。

一〇日　盛丘神社宮司松平定京氏来社。

一一日　出光九州支店新庶務課長、是久共和氏　及び入江氏参拝　交通安全協会清明殿に於て表彰式

宗像大社御用　綜合印刷
有限会社　大和印刷所
宗像郡宗像町東郷　電話東郷27番



宗像四郎氏貞　(四)

山下半可　作
福田長庵　画

骰子　㈢

このことが領主と家老との間に溝を造って行った。そしてこの溝をつくる事は義隆にとってうるさい諫言者の防壁ともなったのである。

武任は奥へ出入りすることによって自らの位置を決定しようとした。奥には男性がいない。奥の女性にとっては男性に接触するということは絶対の機会であった。武任が彼女らに目をつけられたのも無理はなかった。

大内館に噂が立った。

〽大内館の篳篥は
　よしとたけとが
　よう鳴るげなや

よしは義隆のこと、たけは武任のことである。武任に接近した二人の側室がいた。この側室のどちらかと武任とがあやしいという噂を諷刺したものであった。噂はすぐに広がる。この噂自体も奥から出たものに相違なかった。側室と武任との関係を他の女房衆が妬んだことから出たものらしかった。

噂は義隆の耳にも入った。義隆は憤った。が、それを自制した。それどころか、かえって自分の女を武任に与えたのである。義隆はここで計算したのである。処断の処置を取って一切を御破算にして出直すか、寛大な許諾の立場をとっておおらかな風流人を装うか、と考えた時に彼には後者が気に入った。更に武任の立場を擁護することは家中の武断派を押え得るかもしれない。又、この際武任を失って諫言者と対決することは計算に合わない、と考えた。

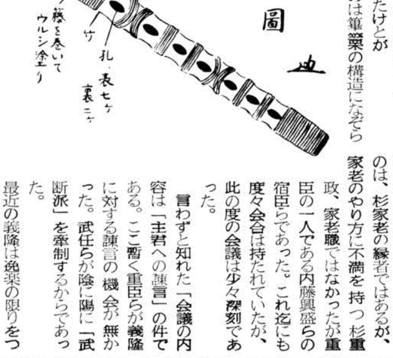
貴人が家臣に自分の女を与える例は昔からの例が多くある。そして与えられた家臣が主人に対して終生の忠誠を致す例も多い。こんな考えが義隆の心にあった。ここに重大な計算違いがあった。

義隆は国外情勢に目を向けていなかった。又、領内の情勢をも適確に把握してはいなかった。その上、毛利、陶等の諫言者の意図及び家中の空気にも疎くなっていた。いわば補佐の足らない武任を盲信しただけのことであったに過ぎない。

篳篥という雅楽の楽器は、長さ五寸程の細い竹に籐を巻いたものである。音を出す穴は九個あって「舌」という葭で作った吹き口をくわえて吹いて鳴らす。

よしとたけとが

というのは篳篥の構造になぞらえて主従が芳しからぬ関係にあると皮肉ったものに外ならなかった。



義隆の計算違いは当然武任の我侭を許すという結果になった。この成り行きに目をつけていた者があった。筆頭家老の杉重矩である。

武門としては陶と毛利に劣る杉ではあったが、武器弾薬を貯わえ兵を養って有事の体制をとっている陶と毛利を、家中のために喜ぶべき筈であるのに、反対に苦々しい事に思っていたのだから、此の際武任を利用しようとしたことは当然であった。

領主に酒池肉林の歓楽を奨める相良武任、これを、筆頭家老の地位から落ちまいとして必死になってあやつる杉重矩、そして彼らによってますます暗君に仕立て上げられる大内義隆、更にこれらを監視諫言し続けた陶隆房と毛利元就ほかの重臣達、何れも主家を思うかのごとき立場を誇示しつつ時は過ぎて天文十九年を迎えた。

三者三様の構えのうちに双六に向って運命の骰子が投げられたのである。

降る雪　㈠

天文十九年の正月、総登城の年賀のあと、陶の館には陶一派の謀議が続けられていた。一派というのは、杉家老の縁者ではあるが、家老のやり方に不満を持つ杉重政、家老職ではなかったが重臣の一人である内藤興盛らの宿臣らであった。これ迄にも度々会合は持たれていたが、此の度の会議は少々深刻であった。

言わずと知れた「会議の内容は「主君への諫言」の件である。ここ暫く重臣らが義隆に対する諫言の機会が無かった。武任らが陰に陽に「武断派」を牽制するからであった。

最近の義隆は逸楽の限りをつくし、その乱行振りは目に余るものがあった。昨年は彼の水軍が表面は貿易を装い乍ら南支の浙東に於て掠奪を働いている。当時の貿易船というのは、北は奥州の伊達政宗から伊勢の九鬼義隆、瀬戸内の村上水軍、筑前宗像の水軍及び志賀島の阿曇の水軍、豊後大友の水軍、薩摩島津の水軍等があって、夫々表向きは貿易船、内実は海賊行為をする者もあった。有名な天文十八年の和寇（八幡船）事件は適々海賊行為を働いた一例であった。大内の水軍もその中にあって何がしかの利得にありついたという訳である。

（つづく）

× × ×

宗像神社奉鎮祭

―出光興産千葉製油所に於て―

千葉製油所宗像神社御鎮座祭は次の日程表の通り斎行された。

五月二日、大社神職五名御分霊を奉持して上京

五月三日午后一時、千葉製油所着、直ちに仮殿に安置し奉る。

同日、午后三時、地主祭　新殿祭を斎行

同日深更、御鎮座祭斎行

五月四日午前十時、御鎮座奉祝祭斎行

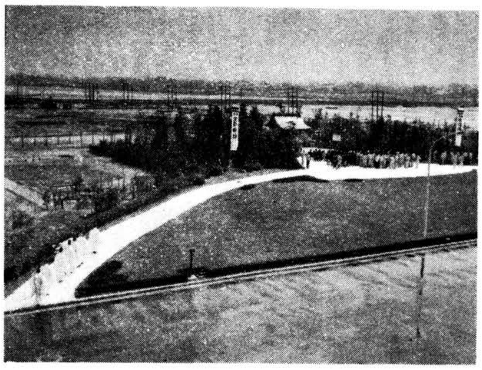
以下は御鎮座祭に奉仕した職員の手記である。

「千葉製油所宗像神社御鎮座奉祝祭は風薫る五月四日、大社職員五名奉仕、出光監査役、長井重役、川端所長以下全従業員参列のもとに斎行された。この日房総の空は今日の奉祝祭を祝うが如く紺青にすみわたり、宗像神社と大書した幟は薫風にはためいていた。

前日深更、筑紫の御本宮より奉持し奉った御分霊を桧の香もかぐわしい御本殿に奉遷申上げ、今日の奉祝祭を迎えることになった。午前十時祭典開始ー皇大御国の大御栄の御為此の製油所と従業員等を永く久しく守り恵み幸ひ給へとー斎主久保宮司の祝詞奏上があって、その後参列者が玉串を奉奠、歓びにあふれた柏手の音が鳴りわたった。

広大な構内の中、白銀の塔は聳え、近代建築の粋をこらした建築物が並び立つところ、ここ宗像神社の一角は筑紫の総本宮さながらの厳かなたたずまいを見せている。

近代産業に於ける事業家を見渡して最近特に目立つことは「信仰の姿」である。これは、事業は人であり、その「人」の心の倚り処は信仰によって支えられるものであるということが再認識されたからである。事業を通して人間を形成し、更に国家社会の在り方をその事業に奮む人間の姿によって表現しようとする努力が見られることは喜ばしい。先に徳山の製油所構内に宗像神社が奉鎮され、今また千葉にも同じく荘厳な神殿の御造営御鎮座を見た。朝夕ここに拝礼して社域にいそしむ人々の上を、神々は永遠に御照覧遊ばされるであろう。



写真は　千葉製油所宗像神社の遠望

消　息

拝啓　陽春若葉の候、益々御清適の段賀し上げます。

毎月「宗像」をお送り下さいまして有難うございます。老生福岡学芸大学に勤務中は公私共大変お世話になりました。此度福岡分校主事を停年で退職し、本年四月から九州産業大学に勤務することになりました。今までのようによろしく御願い申し上げます。当大学は商学部、工学部とをもちまして殆んど九大の教授を招いて斯学教育に拍車をかけております。学生は西日本から集まっており宗像から既に二十数人の学生を容しており張り切っております。

宗像は本年東に九州教育大学、西に九州産業大学と宗像の発展は愈々近しと云った感が御座います。神助疑なしであります。皆様の御自愛を祈り上げます。

福　岡　花田主計

いよいよ長閑な春の陽気となりました。はるかに母国の桜や藤を偲び幼少の頃ありし日の事を追想しています。

折柄　社務所の皆様御健勝の事と察します。先日からは立派な贈物をいただきまして有りがたくお礼を申上げます。

森光妙子様　（久末出身）

玉城夫人様　（田野出身）

結城夫人様　（西郷出身）

右三夫人に宗像誌を御愛読願う事になりました。就きましては初穂料として三弗宛寄進下さいましたので住友銀行を通じて送金いたしましたから御受納下さい。

異郷で同郷の人と聞けば親戚以上の親しみを感じますし、（宗像）と言う二語に結ばれた愛念は決して他の追従を許さないものがあると思います。

皆様が各方面に御活躍なさって居られる事を心からお喜び申し上げます。

皆様切角御自重下さい。

（在米）　中村次郎平

交通事故追放のために

この頃、道を歩いて一番頭に来る事は、何と云っても車が多過ぎると云う事だ。道路を車が走る等と云うものでない。路に車が溢れていると云う感じである。横断歩道も楽々と渡れない。まったく緊張のしずくめ！首の左右の回転運動にはもってこいかもしれない。「男子ひとたび門を出ずれば七度道の災害がある」とでも言いたい処。俗に交通地獄とか交通戦争とか呼ばれているが、この中核を占めるのは交通事故である。

この事故にも色々あるが、何と云っても一番先に取り上げられるのが、車対人の問題である。運転する側とテクテク歩く側との問題である。

これについては両者それぞれ言分がある。運転する側の言分として

①道路が狭い。

②道路の舗装が完全でないので運転がしにくい。

③歩く者が交通ルールを守ってくれない。

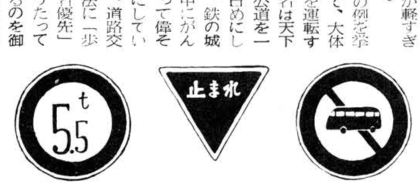
と、専ら交通事故が起るのは、道路が悪く、歩行者が不注意で道路に飛び出すからだ等としている。これに対して、歩行者側の言い分は

①自動車の数が多すぎる。

②スピード違反が多い。

③違反者に対する罰則が軽すぎる。

等の例を挙げて、大体車を運転する者は天下の公道を一人占めにして、鉄の城の中にがんばって偉そうにしている。道路交通法に「歩行者優先」とうたってあるのを御存知じゃないのだろうか、と述べている。



新標識

車の増加に伴なって道路が改善されない事が、今日の交通事故の致命的な点ではある。しかし、事故の原因は、九十三、三％迄が――運転者の不注意や運転技術の未熟練によるものであると云われている。近頃の産業、経済の発展につれて生活そのものもスピード化したので、道路の改善、交通施設の整備等は緊要事である。しかし、運転者の方に「安全運転」の心構えがなければ、むしろ逆効果となりかねない。

何故なら、これまでの交通事故のおもな原因は、一部の運転者が歩行者の事など考えないで、スピードを出しすぎたり、無謀追い越し、酔ぱらい運転等法に定められた規定を守らなかったため起ったものであるから、これ以上スピードが出せるように、道路が立派になることは、交通事故がもっとふえる原因となるだろう。

交通事故をすくなくすることだけを考えるならば、わき見運転やスピード運転が出来ないような砂利道や、デコボコ道である方がかえって良いのではないか。と云う逆説的な意見さえもある。

今日もどこかで、情け容赦なく交通事故は起きている。天寿を完うして御昇天されるのは兎角、突然尊い人命を奪い、財産に損害を与える交通事故を防止する事は、お互い各自の自覚に俟つより他はない。

（交通事故をなくす福岡県民運動本部しおりより文責編輯部）

東京宗像会

第四回総会を開催

東京宗像会は四年前都内で開催されて以来種々の事情で今日まで見送りの形となっていたが、今回出光興産千葉製油所の落成操業にあたり、その見学を兼ねて会員家族の合同懇親の姿をもって同製油所で五月十二日盛大に行われた。

この日は晴天とは言えなかったが、連日の雨天も薄日のさす好調に恵まれ、会員二百六十余名の半数にその家族も含めて二百四十余名、自家用車で東京から馳せつける人々の外貸切バス四台に幼児もまじえた楽しい旅の一行が十二時過ぎ、出光幹部社員一同の出迎えをうけて製油所構内に到着した。

去る三日筑前の宗像総本宮の分霊を同宮神職の奉仕によって遷座したばかりの木の香も芳しい宗像神社の神前に一同礼拝、はためく社前の幟に郷土の氏神に毎秋の大祭を楽しく過した思出が、一同の胸中に甦って左右の同郷人に一層の親しさ懐しさを覚えたことであろう。参拝後なごやかに一団は所内施設の見学に廻り、やがて一同は出光興産心づくしの会場たる大食堂に顔を揃え、総会が開催された。

接待主任格の大和重役の進行司会で、先ず主人役の出光泰亮氏歓迎の挨拶、次いで石田正実専務をはじめ会員代表の祝辞があってパーティに入り、途中宗像大社久保宮司、安永渡平氏等の談話があって会場は漸くくつろいだ気分横溢、司会者の機転は童幼児をマイクに招いて童謡合戦となり、このコンクールは同郷人とその縁につながる者に宗像人意識を一層たかめて拍手喝采、まことに類例のない同窓会とはなった。

ご馳走を囲んで談論風発の一群もあれば、互に郷土の消息や思出を語って談笑の婦人グループもあって盛会裡に萬歳三唱、再会を約して午后三時半に解散した。

四年前東京で開催された宗像会の記事を郷土の新聞紙は特報のニュースとして「日本一の郡人会」と報じたことがあった。まことに宗像出身者の多彩な人々による和やかな会合は、新聞人の目をみはらせたことであろう。今後も宗像人の会合が東京は勿論、各地に日本一の郡人会の驚異の盛花を開いてゆくことを念願してやまない。

幼稚園のよい子が参拝

薄曇りの五月四日、田島幼稚園の良い子達が当大社にお参りした。神社で用意された数々のお祝い品を戴いてうれしそうであった。

町村往来

◇郡青年団総会…3日、宗像町公民館。

◇少年ソフトボール大会…5日午前9時半、郡内いっせいに各校区ごとに実施。

◇福間町で敬老会…9日午前10時、福間中体育館。同町の主催で町婦人会の慰安演芸会など。

◇宗像町臨時町議会…8日、改選後初の臨時町議会また同町都市計画特別委員会を設けることも決まった。同委員会は、本年中に着工を予想される学芸大学東郷校舎建設や同職員住宅建設、敷き地確保などの受け入れ態勢整備や住宅公団などによる住宅建設など活発化してきた宗像森林都市建設を総合的観点から検討。

◇迷いバト…6日から宗像町東郷の食料品店吉武虎三さん方で保護しているが、かなり弱っている。番号は(63)31571。

◇青年学級商業講座…10日午後8時、宗像信用組合ホール。

◇郡果樹園振興協議会の専門委員会…10日午後1時、農協郡支部。玄海町池野の果樹組合総会も同午後1時、池野村農協。

◇小児マヒ生ワクチン服用…つぎの日程で服用、福間、津屋崎、玄海、大島は6月上旬の予定。

◇公民館主事定例会　14日午前9時半、福間町公民館　38年度研究テーマの打合わせ

◇赤間婦人会のダンス講習…15日午後8時、赤間公民館。

◇玄海町議会…玄海町は改選後初の臨時議会を13日開き　正副議長、各常任委員長を決めた。▽議長中野正之▽副議長占部満

◇カ・ハエを退治しよう…宗像町婦人会王丸支部は15日午後2時から王丸公民館で環境衛生講習会を開いた。

◇玄海町田島農協の役員…大森義壮の玄海町長就任にともない後任組合長に前参事福崎三郎氏、参事には鎌瀬豊氏がこのほど決定した。

◇迷いバト…13日夕、福間警部補派出所に伝書バト一羽が迷い込んできた。番号一一ー七六四五。

◇婦人学級…上西郷は15日午後2時から上西郷公民館で　農業改良普及員島田技師の話。

◇神興校区婦人会の社会見学…16日、北九州市小倉区平尾台、若戸大橋などを見学。約百五十人が参加。

（西日本新聞より）

割烹旅館
喜　楽
福岡県宗像郡玄海町神湊
電話（神湊）一九番

宗像伝説　其の二十八

女房に目を離すな

今から約二百八十年の昔、天和三年という年の春、本木村から一寸離れた部落に百姓久七という者がおりました。その家並びは百姓権右衛門の次が久七で、その次が六郎右衛門の家の順序に並んでいました。そのうちの六郎右衛門というのはもう相当の年配でしたが、若い時に相当遊んだので俗にいう「かさかき」でした。

さてその頃、久七の女房は二十五才という年増盛り、いささか元気の足らない亭主久七の事が物足りないといった具合でした。その何となく物足りない所にこのお話のポイントがある訳です。

妙なことにこの女房は夜になると普通に床に入るのに、夜明方になると外に出るのです。久七はおかしいなとは思いましたが、まあ小用に起きたのだろうくらいに考えていました。しかしそれが毎朝の様に出るのです。久七がここの所を何とか気付けばいいのにうっかりしていました。日課的生理現象だろうと思っていたのです。ところがその日課的生理現象なるものが別の方面だったのですね。

女房が毎朝早く起き出して、隣の六郎右衛門の庭のあたりにいたのを権右衛門が見てしまいました。そうこうしているうちに季節は夏になりました。張り切った女房は満足して生活しています。久七も余り責められずに暮す日常に満足していました。

「かくすよりあらわるるはなし」と申します。女房のおなかがふくれはじめました。久七も女房の懐妊については不審な点もありましたが、まあまあ子供の生れることだから目出度い事だ、と納得していました。

六右エ門
久七夫婦
権右エ門

さてその年も暮れ、翌年の春頃に愈々産気づきました。陣痛が起りましたので取り上げ婆を頼んで用意にとりかかりました。ところが仲々生れません。五日程経っても生れません。到々医者を頼んで来て貰いました。何彼と手だてをつくして薬などを飲ませた結果、六日目にやっと産み出しました。生れた子供は少々変です。顔が長く手足が長く、おまけに少し体毛が生えていました。近所の女房たちがそれを見に行って何だかんだと云っているうちに、その子供は間もなく息を引き取りました。近所の人たちは恐ろしくなって逃げる様にして帰ってしまいました。

お産を済ませた女房が其の後おかしくなりました。腹が痛み通しです。古記録には「以っての外にて声を立て、たけり申し候」と書いてあります。四五日目にはわめき散らし、着物を喰い裂いて悶えました。そして七日目に身体の一部から腐れ始め、その部分が「切れ離れ落ち申し候」死んでしまいました。

さあ、あとが大変です。変死した子供の男親は化け者である、との風説が立ちました。その上その化け者が何時迄も久七の家の囲りにうろついて離れない、というのです。噂はとりどりです。

「男親は六右衛門だ」

「いや六右衛門に化けた化け者なんだ」

「いや死んだ女房が、相手は六右衛門で仲々のテクニシャンだと生前いうとった。」

「いや六右衛門は全然否定しとる。」

etc、うっかり女房には目は離せないというお話。（H）

宗像大社献詠 俳句作品集 (九)

津屋崎　西住喜三郎
記念樹の太く青葉に母校の古ク

〃　占部　河童
団地みな窓開け放ち花杏子

〃　渋田史外男
桃咲いた石仏どれも開眼す

〃　井浦　良介
風光る岬に僕と馬つながれ

〃　安部真佐子
節穴よりしじみ売る声故郷の朝

〃　香立喜一郎
河の上に貨車来てかくす花菜月

〃　勝田　光一
能面の目路に白れんの雨降り出す

福岡　神　金次郎
退院の部屋のリラの香あふれ出ず

東郷　小野　淡坡
湯帰りの頭上のタオル菖蒲の香

東郷　小野　花居
五月空菖蒲はにほふ紫に

◇

末永　楸郊
影も石を負ふ石切婦花遠し

吉田　黒潮
鉄に遠く一日菜の花掌に溢れ

三宅　一生
たそがれの沼へ一途に野火走る

箱田みよし
朝雲雀四方より天の濡れ紙はぐ

堀乃内澄乃
蝶わたり運河の泥の穴つぶやく

（めかり六七号より）

宗像信仰の化身 國学の大家 鈴木重胤大人

(八)

筑紫　豊

この事はあまり世間に知られていないが、安政元年大人が、はじめて宗像神社に参詣したとき、香椎宮から太宰府天満宮に参拝し、宰府の旅舎で、この地方の有志家の一人である松屋孫兵衛方に投宿し、幾日か逗留して、附近の青年子弟を集め講義をなし、談たまたま南北朝のことに及ぶや、声を励して、南朝の大忠臣菊池武時のために、湊川の楠公の顕彰碑にも劣らぬ立派な碑を立て、もって鎮西志士の憤起を促すべきだと説いた。

国臣等は、この言を聞いて大いに感激し、同志を語らって、菊池公建碑の議を決し、衆に推されて国臣は、その運動のために上京し、ついに時勢の急変に応じて、建碑のことを一時中止し、国事に奔走して、ついに生野の挙兵、六角の獄の憤死という悲壮な結末を遂げるにいたったのであるが、このことは太宰府附近の故老の間にいゝ伝えられ、松屋孫兵衛の記録にも、やゝこれを証するものがあるばかりでなく、天満宮に現存している和魂漢才碑は、大人の主唱によって、有志とともに、このころ建てられたものであることから考えても、菊池公建碑の事を説いたことはありうべきことである。

大人の事績については、なお、述ぶべきことは多いが、すでに、相当の紙幅を費してしまった。そこで、最後に、大人の宗像三社讃仰の長歌を沖つ宮・中つ宮・辺つ宮の順序に紹介して、この稿を終ることにしよう。

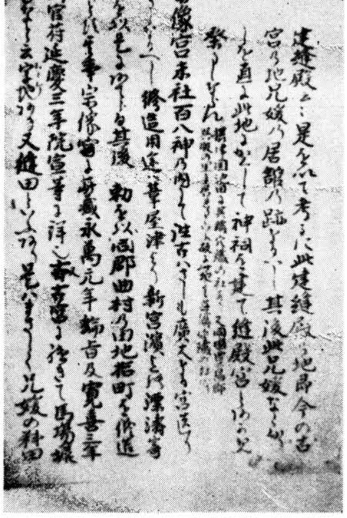
因に長歌の振仮名（現代仮字使い）と濁点とは筆者において附加したものである。

茜刺　天照国に　素戔鳴の　神尊の参とり　侍らひたまひ　久方の　天の河門を　中におき　向ひ立して　二柱　うけひます時　瑞八坂　玉の御統　日神の　い乞とらして　三柱の　日女大神をこゝにしも　なし出ませれ　須さの男の　其大神は　日神の　剣に依て　五柱　男御子なせば　物根の謂れに依て　高照　皇太子と　日神の　なしの随意　三柱の　姫御子をしも　素戔鳴の　神にたぐへて　大地に　降したまひし　大神の　むかひめとして　相共に　国を作らし　共々に　功をたてゝ　其神の　後方の御政　ことゞに　治めたまへれ　天照す　皇太子を　天降し　奉給ひて　天津神　日継しらせと　大命　依しませれば　現人の　事をさりまし　あからめの　事を避して　百不足　八十のくま手に　其神の　かくりますとき　八雲立　出雲国ゆ　ますかゞみ　水沼にいまし　島つとり　宇佐にしづまり　宗像の　崎門の山に　うつろはし　大ましまして　瑞八坂　青き真玉を　わたつみの　おきつしま山　しら浪の　八重折るがうへに　大御身の　形におかして　入日なす　隠りましけれ　大神の　いますだかと　現身の　世にはあれども　皇神の　御代のもころに　言も得ず　なづきもしらに　うまごりの　あやに奇しき　ことこそは　さはに坐けれ　大神の　うつし身ながら　御身をしも　隠らし坐る　おきつしま　今も神世の　さかひなるかも

詠沖津宮　穂積朝臣重胤

天照す　皇大御神　三枝の　三の姫神　天降し　たまひける時　大命　のらしたまはく　汝ども　三前の神は　天神　御子の尊を　助けつゝ　仕奉りて　天神　御子の御為に　豊うけの　其大神を　斎かへと　依しのまにま　あし原の　水穂国に　神くだり　いましたまひて

（つゞく）



鈴木大拙翁に聴く

(一)

「更生保護」と云う雑誌がある。法務省保護局の編輯になるもので更生、保護監察に携わる方々の専門雑誌である。この四月号に、鈴木大拙氏を訪問して雑談した一文がある。

禅の大家として余りにも有名な氏の談言徴中はお面白くここに転載した次第である。

○―○―○

私は明治三年生まれだから、明治時代をまるまる生きたことになる。私が幼い頃はまだ、チョンマゲを結うていた人も随分おったぞ。当時チョンマゲを切りたての人を〃ざん切り頭〃といって〃ざん切り頭を叩いてみれば文明開花の音がする。〃などと歌われたものだ。私の父は鈴木柔という医者だった。医者でも蘭医で、当時西洋医学の最新知識を身につけていた。医学ばかりでなく、福沢諭吉の本などもよく読んでおった。まあハイカラ医者だったんだろう。〃西洋三字経〃という本（バイブルの話を紹介）を執筆したりした。（その御本をわざわざおみせ下さる）父の書斎には、当時の新しい書物が沢山あり、私は幼時からそうした学究的な雰囲気の中で育ったのだが、後年私が、学者になったのはそういう家庭環境に負うところが大きいと思っている。その頃は西洋の知識が急速に日本に入り込んできた時代だった。「究理問答」という本があった。内容は今日の物理学、化学に当るんだが、その中に、たとえば、今なら子供でも知っていることなんだが、白い色は光をはね返し、黒い色は熱を吸収する。といったことが書かれてあった。それでそれまで毎日ピカピカに磨いていた御飯をたく釜の黒いススを洗い落さず、そのままに使うといったことが行われたりした。

（禅の御研究にはいられたのは、どのような動機からでしょうか）

特別な動機というようなものはなかったよ。自然にそうなったんだよ。まあ強いていえば……明治維新で社会が滅茶苦茶に変った。それまでの士族で没落し、家を売って北海道開拓の屯田兵として落ちてゆく者は数知れなかった。そのうえ西南戦争で経済が更に紛乱したんだが、丁度戦争直後の日本と同じだった。私の家も窮迫し、私は学校の教師になったが、仲間達が順当に上の学校に上がっとるのをみると、私も勉強したくてたまらなかった。社会がひどく乱れておったが、その中で何かよりどころをつかみたいという気持があったのだろう。それと北陸は仏教の盛んな地方であったことも影響しとるだろう。仏教といっても、北陸は真宗が盛んな土地だ。私の家は臨済だが、禅では矢張り北陸は曹洞が多かった。私の家が、特に仏教と深い関係にあったわけではない。日本のどの家もが、形式的に何かの宗派へ属するというしきたりに従っていたに過ぎぬ。私が禅に近付いたのは、同郷の人の話から、円覚寺に洪川導師という大徳のいることを知り、二十三才の時上京し、洪川導師を訪ね、参禅することになったからである。西田（幾太郎）は若い頃からの友達で、私の一番古い友達だった。……犯罪はふえとるのかな（青少年犯罪が特に著しく増えていることと、世界的な傾向であることを申し上げる）……そうかなあ、それは大問題だ。青少年の犯罪が増えとるということはどういう原因によるんだろう。三十代、四十代の者は日本の敗戦というものを経験しとるから、その影響が出とるともいえるが、青少年はそういう経験をしとらん、つまり食うに困る者が多いのかな。（むしろ少年非行は経済的には恵まれている家庭からも少なからず出ております）

（つづく）

日本の民主々義

戦前の場合（その五）

天野　健一

若し此の勢を以って民間人の言論が政府に迫ったなら或は議会開設の上に一大飛躍を見たかも知れないが、生憎く建白者の大立物江藤新平が郷党に推されて佐賀に於て暴徒化して了った、事破れて江藤は鹿児島に潜行しついで土佐に渡り漂旅の泊を続けて後阿波の国境で捕われた。縛についたとき雨に濡れた憲法論が淋しく懐にあった。そして野蛮極まる梟し首に会った。然し是が為にホッとした政府人もあったであろう、こう云ふ事が度重った上は政府としても与論に答へねばならなくなって、とうとう予備期間九ケ年を置いて明治二十三年国会開設の議を決定したのである。

福沢諭吉が日本語をもって西洋流の「スピーチ」をなし得ると云ふ研究をしたのは、丁度征韓論の真最中であったが、このことはあまり世間では注意して居なかった。然し日本の民主々義建設の上には重大なる役割を果した。

福沢は明六社の会合に於て初めて之を試みた。大体明六社とは何かと云うと之は今の社交倶楽部の初まりとも云うべきものである、福沢が主で学者や先覚者を集め晩餐を共にする傍ら西洋の学説や世界の珍らしい事実を後進の為に吹聴して呉れる談話会であって、その機関誌は明六雑誌と云ふのであった。「森有礼、中村敬宇、伊沢等錚々たる人物が沢山集って居た。福沢が演説を試みる迄の苦心は並大抵ではなかった。三田の邸に大きな姿見を置いてその前に立って「諸君よ諸君満堂の諸君」とやって稽古をしたものだが、家人は之を見て先生は少し気が可怪しくなったのではないかなど思われた位だ。現に「スピーチ」と云う語を日本語に当て嵌めたらどうなるのかと云う事について、含んど三ケ月を費して辛うじて探し得た文字が演舌の二字であった、当分演舌の二字ですませて居たが舌と云う字がどうも感心出来ないと、之に変る字を苦心の末見付けたのが演説の説という字が定まったのである。されば明治十六年頃迄は演舌会と書いてあった。福沢は慶応義塾と称する立派な学校を持って居たので、講堂を利用して人を集め練習に演説をやった、学生にも追々希望者が出て之を研究して共々に相当辛酸を嘗めたのだ。斯くて福沢は公開演説に適する様にと先ず同志に討論せしめてそうして自己の演説草稿を代読させて、言葉の表現を研究日本語演説を成功に導いたのである。三田の学生が「自由」と「民選議院」設立に高波を挙げたのも亦興味ある歴史的事実と言わはばならぬ。事実公衆の前に立って自己の意志を遺憾なく発表することは非常にむつかしいものであるが、漸くにして福沢が日本語を以って「スピーチ」がやれると云う事実が出来たのである。

演説一本で憲政の神と言われた「犬養木堂、尾崎愕堂も皆其頃の藤塾の学生だった。その他知名の士で此学校から出た雄弁家は数えきれぬ程あった。特に全国に雄弁家として名を売った荒川高俊も矢張り此学校の出身であるが、演説の元祖は福沢だが政治演説を公開したのはこの荒川であった。斯くして演説は愈々盛んになって大道演説、政談演説、弾劾演説と人前と処を問わず自己の主張と意志を表現することは立身出世の糸口とされる様になった。福沢は先にも述べた様に「西洋事情」の最終版に「国に三王なしと雖も一定の国律あり」欧羅巴の各国この制度を用ふるも多しと「立憲政治」と「憲法」を紹介し国君の権限を規定して居る事実更に民主々義の実態を明治以前に我国民に教えたのである。斯様に福沢ほど我国の民主々義の啓発に功績のあった人は稀である。

（一面よりつづく）

吉武　立石　昇
候補者の訴ふる声宵闇の空気ひゞかせ我が耳朶を打つ

〃　立石ろせの
浜木綿の枯葉の中より芽立ちたるみどりの芯芽日々に伸びゆく

深田　中野　節子
母の日のつどひ終りて帰る道白髪ふえしをかたみに見合ふ

神湊　隣船　俊
一向に道を尋ねて我が心凡夫の闇路にまどはされける

香椎　織田　橡雨
菜の花のにほふ長田の朝あけにさやぐ雲雀のこゑほがらなる

吉武　原田　松代
ねて居れとの姑の言葉に今日もまたひねもす床の中で書を読む

〃　金丸　柳蔵
簑笠着て掘り来し筍泥のまゝ友におくりてりんご貰ひぬ

〃　原田　リノ
体力を危ぶみ乍ら一歩一歩登りきてつひに山の上に立てり

大島　黒木　茂一
病あつき子を思ひつゝ籠りをりしづ心なく花の散る日を

田島　宇都宮　弴
五月雨の降りつぐ一日こもりゐて子等学校ごっこして遊ぶ声する

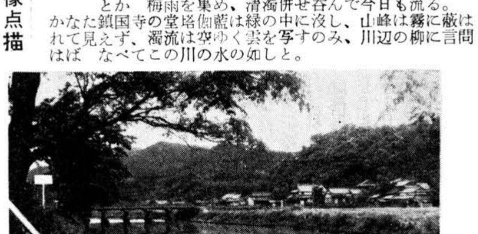
〃　小野　迪夫
五月浜神幸の列に紅白の長旗へんぽんとたなびくが見ゆ（五月祭）

名島　風　信子
兎つづみの音も長閑にこだまして春なほ寒き苔寺の庭

田島　白雲　山人
たわむれに老妻を負ひよろめきて重きにおどろきため息を吐く

宗像点描

筑前の国宗像の里　社にほど近き釣川のほとり
行く川の流れは絶えずしてしかももとの水にあらず
とか　梅雨を集め、清濁併せ呑んで今日も流る。
かなた鎮国寺の堂塔伽藍は緑の中に没し、山峰は霧に蔽はれて見えず、濁流は空ゆく雲を写すのみ、川辺の柳に言問はば　なべてこの川の水の如しと。



我楽苦多告知板

○大学を卒業して赴任するB君、都を後に筑紫路を眺めながら当社もよりのA駅に下車した頃は春の夕暮れであった。これからお社まで如何せんと、思案投げ首、と彼方に光るネオンの瞬き、近よると耳馴れたチーンジャラジャラと云うリズム！ちょと一休みと迷わず店に入った。大学に通いながら鍛えた？指の冴え、みるみる内に純益壱千円也をハジキ出した。

これだけあれば、この夜更け、態々行き着く必要はないッ！とA駅付近に一泊、翌日涼しい顔でお目見えしたと云うお話。

○C君下宿のテレビは最旧流行型の老朽機、最近は寄る年波に勝てずか四十分程もすればすーっと映像が消え、これから後は如何に手を尽してもサッパリという厄介な代物。ところが去る夜、プロレスを観んものとスイッチを入れたC、Nの両君、いよいよ力道山登場というクライマックスになって膝を乗り出した途端、例によってすーっと消えて了った。忿懣やる方ない御両人、まして凄絶な格斗シーンにすっかりエキサイトしていたとは………矢庭に一人がテレビを押さえつけると一人がエイッとばかりにテレビの横腹を蹴り上げた。と、こわ不思議、再び映像現れてそのまま消えもせず、当夜の御両人を充分堪能させたばかりか、以来今日まで余命を保っている。それにしても恐れ入ったるお足前、と一同感心（寒心）することしきり。

○「A子さん、お湯はわいていますか？」

常とは異るソフトなお声。

A子「はあーい、わいていますよ！」

「A子さん、そこのお茶の葉にお湯を差したら、お茶が出ないかねー」

A子「ではお茶をお入れしましょう」

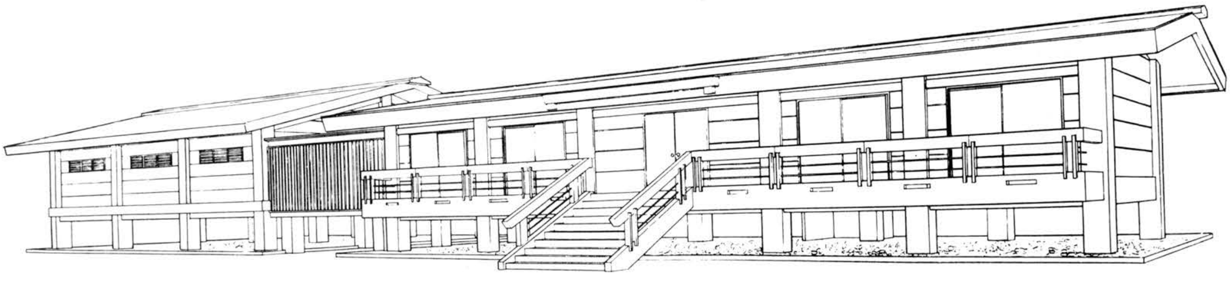
こう云う素直でない奴がいた。

宗像

毎月一日発行
定価一年 送料共500円
発行所
宗像大社社務本局
福岡県宗像郡玄海町
電話 神湊26番

宗像大社　宝物館建設計画いよいよ進む！

――宗像大社宝物館完成予定図――



▲まえがき▼

誌友の皆様すでに御承知のことと存じますが、宗像大社宝物館建設のことについて此の計画が此の度漸く具体化致しましたので、その全容をお知らせ致します。これをご覧下さいまして、世界に誇るわが宗像大社沖津宮の祭祀神宝をはじめ郡内に散在する重要文化財を収蔵するという目的を実現するために、皆様の御理解と御支援を賜わりたいと念願してやみません。

―本欄には設立趣意書、経過報告、神宝類の写真及び解説等を収録いたします―

宗像大社宝物館設立趣意書

当大社収蔵の沖ノ島神宝二万数千点は、あらゆる意味に於て世界に比類のない民族的至宝であります。先年特別の思召によって今上陛下の天覧に供し、悉く国の重要文化財に指定せられ内数百点は新国宝となっています。古代の大和朝廷が国家鎮護の熱禱を捧げた御しるしとも云うべき沖ノ島神宝を中心に、周辺地域に散在する貴重な文化財を収納して、この度宗像大社宝物館を設立することになり当局からも積極的後援を受けることになりました。

日頃当大社を敬仰して我が民族国家の真姿に限りなき親愛の情を抱いておられる篤信家の皆様に、宝物館設立の趣旨を御諒解いただきまして、誠心からなる浄財を寄進下さるよう御願い申上げる次第であります。

今此の趣意書を差上げるにあたって、謹みて神明の御加護を請い奉り、又篤信家各位の御理解と御協力を御願い申上げ、やがて各位の浄財が世界に誇る宗像原頭の偉観となって実現する日を想う時、限りなき喜びを禁じ得ません。こいねがわくば此の趣旨に格別の御協賛を賜わらんことを

昭和三十八年佳辰

宗像大社宝物館建設委員会
宗像大社宮司　久保輝雄

宝物館近く着工

愈々本年から宝物館が建設される運びになったが、この企画は数年前にさかのぼる。さる昭和三十五年三月十四日、宗像大社久保宮司、出光興産出光泰亮氏が、宗像郡出身の元老、深田千太郎氏宅を訪問、宝物館の建設計画を談合された事から始まる。

其後同年三月二十日宗像大社社務所に於て興聖寺総代、玄海町長、町村事務局長、其他関係者出席のもとに第一回建設協議会が行なわれた。この時迄は方針の決定が見られなかったが、同年十二月八日、福岡県教育庁に関係者一同集合、設計計画の協議がなされ、構想のアウトラインが出来上った。翌昭和三十六年六月二十六日県教育庁にて事務打合せの結果、設立法人の組織化と建設工事概略仕様が検討され、県教育庁から「宝物館管理運営委員会規則」の原案が提出された。

同年十月三十日付、宝物館建設陳情書並に重要文化財管理団体指定申請を文化財保護委員会に提出。翌昭和三十七年二月六日、重要文化財管理団体の指定を受け官報に告示された。

同年五月十四日付、第一回文化財防災施設費補助金交付申請書を文化財保護委員会に提出、久保宮司上京、担当技官に基本計画を説明、地元関係者の要望を申入れた。

同年七月七日、宗像大社社務本局で、建設委員会の発会式が行なわれた。委員は左記の通り、

委員長
宗像神社復興期成会代表　出光　泰亮
副委員長
宗像大社宮司　久保　輝雄
興聖寺住職　福山　宗邦
委員
宗像郡町村長会長　高橋　盛平
宗像郡町村議長会長　広渡作五郎
興聖寺檀徒総代　藤崎保五郎
宗像神社役員代表　吉武儀一郎
監事
町村事務局長　横山　茂樹
玄海町教育長　安部　健三
幹事
宗像大社権宮司　小野　迪夫
同　祢宜　宇都宮　弴
同　祢宜　葦津　嘉之

以上のメンバーで構成され、同日から建設委員会規程が施行された。尚工事監督は設計者東京芸術大学講師伊藤要太郎氏に委嘱し、工事主任は郡内又は郡外の適任者を指名することになった。

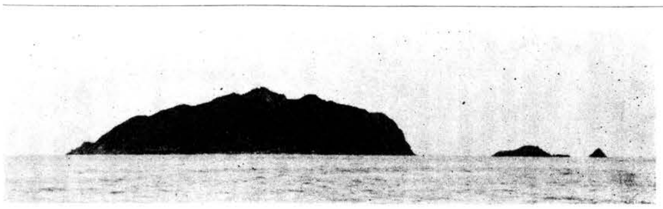
其後同年五月十九日付で、第二回文化財防災施設費補助金交付申請を提出、国庫補助金支出の内示を受けた。

同年十一月五日、大蔵大臣宛に宝物館建設募金の為特定寄附金及び指定寄附金に関する指定申請書を提出、会社法人に対する募金の免税申請を行った。

翌昭和三十八年四月十三日、久保宮司上京設計者伊藤要太郎氏と面談の上、宝物館建設基本設計最終打合せを行い建設青写真が出来上った。本年七月頃より工事に着工、今月より募金の開始を強力に進める事に決定した。　以上

―宗像大社宝物館設立予算書―

一、工事総額
一金参千九百拾弐万円也
一、工事内訳
①、収蔵庫建設工事費　二七、一一〇、〇〇〇円
②、建設用地買収費　二、二一〇、〇〇〇円
③、冠水防止排水工事費　二、八〇〇、〇〇〇円
④、駐車場及び造園工事費　三、〇〇〇、〇〇〇円
⑤　管理事務室並に管理人室　四、〇〇〇、〇〇〇円
計　三九、一二〇、〇〇〇円
一、宝物館工事仕様
①、鉄筋コンクリート造、高床式
②、正面長さ四四、五メートル（二四間）奥行一〇メートル（五、五間）
③、面積、収蔵庫一五〇平方メートル（四五坪）展観室其他一六二、五平方メートル（五〇坪）
④、高さ、地盤面より軒付上端まで、六、八メートル（約三、七五間）
⑤、各部仕上
外部
柱、梁、壁、軒ウラ、リシンガン吹仕上。土間ーモルタル仕上及び砂利敷き。開口部ー出入口、スチルフラッシュドア。屋根ー銅板JIS三三〇五使用
内部
床ーフローリングブロック張り。壁ーヘシャンクロス貼及びパーライトラプスター塗り。天井ー吸音テックス及びパーライトプラスター塗り照明ー四〇W蛍光灯天井直付け、各部屋コンセント取つけ
一、宝物館管理事務室
建坪一二六、七平方メートル、（三八、三九坪）木造モルタル
一、管理主任室
建坪五四、四平方メートル、（一六、五坪）、木造モルタル
一、建設用地　宗像大社本殿より東側約二千坪
以上



―宝物館設立募金について―

昨年三月宗像誌を通じ、愛読者の皆様に募金の御願いを致しました処、各地より浄財を御送り下さいまして、応募総数三三九件に達しました。これはひとえに、篤信家の皆様方の御協力、並に大神の広大無辺なる御神徳によるものと関係者一同感謝致して居ります。ここに紙上を通じて御厚志の程、厚く御礼申し上げます。

尚上記設立予算書の通り、前回の予定を大きく上廻る、西日本地区に於ては最高級の宝物館を建設する事になり、ここに新たに篤信家各位の御理解と御協力を御願い申し上げ、御協賛の浄財が、世界に誇る宗像大社宝物館となって実現する様、再び御願いを申し上げる次第であります。

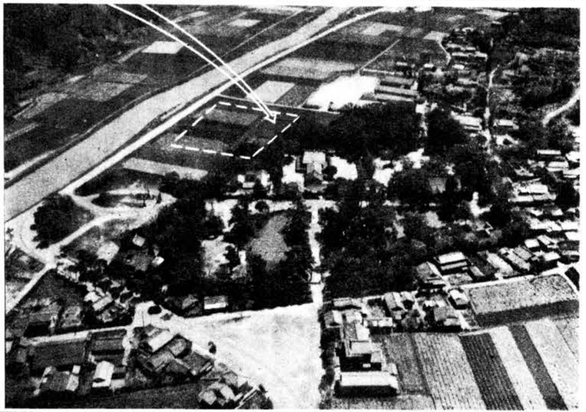
今後宝物館が竣工する迄は幾多の困難に直面する事と覚悟致しておりますが、皆様方の御援助と、御熱誠あふるる御協賛に対しまして、是非共御応え申し上げるべく、全職員一致協力致しまして建設に邁進致す所存でございます。

附記

一、この寄附金につきましては大蔵省より免税の認可を得ていますので念の為申添えます。
一、宝物館完成の時には一般公開の運びになりますが、特志協賛の各位には優先御案内状を差し上げます。
一、本事業に対する資金寄進者名は芳名簿に登載して神前に奉告し、永く神庫に収蔵いたします。
一、送金は「福岡県宗像郡玄海町、宗像大社社務本局」宛御願い申上げます。
振替口座福岡一四五九一番

写真説明

上は神島沖ノ島。右手の二つの島は小屋島・御門柱の岩礁。
下は辺津宮境内鳥瞰図左上部の白線かこいの所が宝物館建設用地。



宗像大社国宝重要文化財

沖津宮御神宝について

附、色定法師一筆一切経、稲元経筒他

一、沖ノ島

筑前沖ノ島は玄界灘の洋上に浮ぶ孤島で、宗像大神をいつき祀る神の島として、古くより信仰の伝統をうけついで今日に至っている。周囲四粁の小島ながら、朝鮮海峡を扼する位置にあり、壱岐・対馬と相対する海上交通の一要衝を占めている。帆船時代も南朝鮮より対馬を経てこの島をめざし、北九州に至る航路もあった。

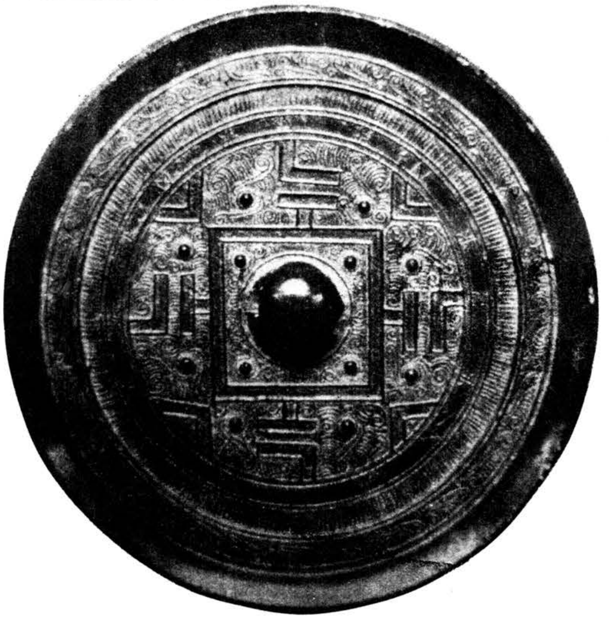
この沖ノ島の沖津宮に対して、同じく宗像大神をいつき祀るのが筑前大島の中津宮及び玄海町田島の辺津宮である。その為に大島・沖ノ島の関係は密接で、ことに大島の人々の沖ノ島に対する信仰は今なお強く続いている。

海上は風浪高いことが多く、玄海特有の荒涛に小舟は翻弄される。

沖ノ島の大きな祭事も江戸時代には時機は決めても、日は決めていなかった。青柳種信の「防人日記」によれば「追風に帆をあげて行かざれば、舟路は永きゆえに、こぎて行きがたし。依て風のなぐもあしと云ふなり」といわれる状態であった。

この島が、古来禁忌の島として懼れられたことはいう迄もなく、漁民の間では島のことを語らぬタブーからか、不言島ーいわずーおいわずーおいわず様等と呼ばれている。この島に神霊の宿在を認める要素は、地理的位置や自然景観にも含まれているであろう。絶海の孤島であり周りは波荒い玄界灘であるが、しかし全然外界から切り離された島ではなかった。縄文期の古い時代より弥生期に至る間に、ここに定住した生活遺跡もあり古墳文化期になっては祭祀の場としての性格が著しく現われてくる。そしてその祭祀品は何れも単なる生活遺品の類いではなくして

我が国の古墳出土品にも例の少い優秀性を発揮している。巨岩の累積するこの絶海の孤島は、古来島そのものが神島である性質上、上代はもとより中世以来現在まで変ることなく、島がそのまま境内であった。


☆変形方格規矩鏡

変形方格規矩鏡

渦文を有する舶載鏡の仿製であろうが、蒼色のなめらかな面を持っている。かなり良質完形の白銅鏡である。特に細線文様の緻密な点がすぐれている。径一四、一糎。

鏡は全部で四十二面あり、大きいのは直径約二八糎位のものから小さいものでは直径五・六糎のものまである。全品の大半に（裏面の模様面）朱が塗られてあり、恐らく腐蝕防止の目的で施されたものであろう。

古代祭祀品としての漢式鏡は珍らしく、殊に類を見ない程大量（総数四十二面）に発見されたのが沖ノ島の特徴である。沖ノ島の祭祀がいかに盛大に営まれたかが想像される。

二、沖ノ島祭祀神宝

ここに昭和二十九年以来数次にわたる学術的調査によって、西暦四世紀中葉頃には厳重なる磐境式祭祀の営まれたことが知られるに及び、果然学界の注目を浴びるに至ったのである。宗像神社復興期成会の刊行になる学術書「沖ノ島」「続沖ノ島」にはその全容を余すところなく伝えている。※

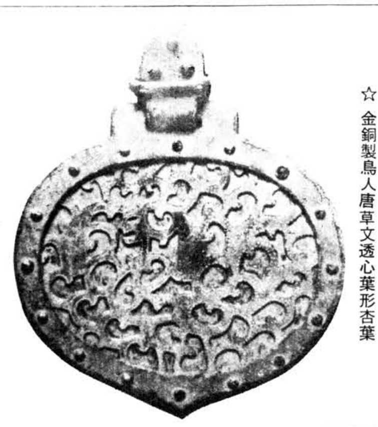
※発見された祭祀神宝は二万数千点に及んでおり、その大要は

一、鏡
二、武器（甲冑・盾・剣・刀・矛・鏃・勒）
三、工具（刀子・斧）
四、装身具（玉類・指輪・釧・帯金具）
五、馬具（鞍・雲珠・杏葉・轡・鈴）
六、その他の金属器（香炉状品・織機・銭貨）
七、滑石製品（玉類・形代類）
八、貝製品
九、容器（ガラス容器・陶器・銅盤・土師器・須恵器）

大凡以上のようになっている。

これらの神宝は、古代の人々が盛大に祭典を営んだ証拠品で、その品質のすぐれているところから国家朝廷によって捧げられたものといえるものである。これによって古代のわが民族が最高最貴の神を祭った道統がわかることは論を俟たない。すなわち宗像大神の御鎮座が日本書紀に見られるごとく「天孫を助け奉り、天孫の為にいつかれよ」（祭られよ）とある通り、国家鎮護の御神徳を雄弁に物語るものといえよう。

一千五六百年前の人々が熱祷を捧げたその祖神は、今も変ることなく祭られている。又その同じ民族が同じ祭祀を続けている姿が現在もある。太古の信仰が同一民族によって受けつがれている例が世界中にあるであろうか。沖ノ島祭祀神宝は単なる祭祀遺品ではないところに特色がある。なぜなら、今も生きており将来も永久に生き続ける信仰上の存在であるからである。

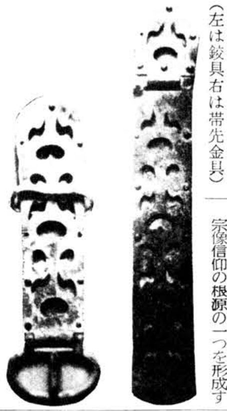

☆金銅製鳥人唐草文透心葉形杏葉

金銅製鳥人唐草文透心葉形杏葉

五枚ある。縦九糎、横九・五糎。台板・透彫板・縁板共に金銅製。透彫板は人面に双翼・三尾翼を持った鳥人に唐草を搦ませた隆文様になり、総体に跳彫及び沈線、連点の緻密な工作が施されている。

金銅製雲母板玉虫翅飾帯先金具

正確には金銅製心葉形透彫雲母板——という。右側がそれで、三個遺存する。左側は鉸具で五個ある。巾は何れも二・七糎、厚さは一・二糎あり、長さは右側約十五糎、左側約十二糎ある。表板と裏板との間に白雲母板を挟み更に心葉形透彫の部分には玉虫の羽根を二枚背中合せに挟んでいる。金具材質は金銅。玉虫の羽根は光線の工合によってさまざまに変化する色彩効果をねらったものであろう。ちなみに白雲母の大板は本邦に産せず、朝鮮半島に多産することからみれば、舶載されたものか。


☆金銅製雲母板
（左は鉸具右は帯先金具）

三、宝物館建設と宗像大社

宗像大神の御神徳を宣揚する為に、宗像神社復興期成会の手によって刊行されたのが「宗像神社史上巻」（昭和三十六年六月廿日発行）である。云うまでもなく神社史の研究も、一般歴史と同じく主として文献に依拠するものであるが、それは大略西暦七・八世紀以降のことであって、それより以前は考古学やその他の学問の説くところに傾聴しなければならない。

宗像信仰の根源の一つを形成する沖ノ島について学術調査がなされ、祭場、祭祀品がつぶさに精査されるに至って、かつは神社のため、かつは我が国文化のために千古の霊跡を明らかにし得た喜びは大きい。これにより、千数百年前に於て多種多様の、しかも尨大なる数量に及ぶ神宝が奉献されて、荘厳なる祭祀の修せられたことは燦然たるものになった訳である。

御神宝のうち六百数十点（数量神社調べ）は昭和三十七年六月新国宝に指定せられ、これらを一括収納すべき宝物館が必要になった訳である。趣意書及び実行計画等については一面に於て述べられた通りであるが、ここに宗像大社の在り方として一つの懸案が生じた。それは現在田島部落の興聖寺に収蔵されている重要文化財「色定法師の一筆一切経」四千三百余巻及び宗像郷土館に保管されている国宝「稲元の経筒」他の文化財をも合せて収蔵しようとする案であった。これらは何れも宗像大社との由縁があり、又宗像郡の文化史の上に於て貴重なる逸品である。共同収蔵することについての願望は関係者の円満なる了解のもとに達せられた。収蔵したものについては、宝物館の管理団体である大社がすべての責任をもって管理にあたることになっている。

神郡宗像、といわれる歴史的由緒の最も深い宗像大社の神域に、国家的な意義をもつ宝物館が、その荘麗な姿を現出するのも目近に迫っている。

やがて宝物館が内蔵する沖ノ島祭祀品その他が、国家民族の尊い在り方を拝観者に示すことであろう。

一切経、狛犬、経筒、他

一筆一切経

これは、宗像の社僧兼祐の子である色定法師が書写したものである。色定法師は名を良祐と云い、宏覚と称した。

鎌倉の建仁寺の開山栄西禅師の弟子となり、時の大宮司宗像氏国の帰依を得て香正寺を建て、文治三年（一一八七年）四月、二十九才の時より写経を始め、安貞二年（一二二八年）七十才の時まで一心不乱に書きつづけた。写了まで前後四十数年間を要したと云われている。この間、毎日宗像の社と孔大寺権現に参詣し、歩く間も頽に案（写生板の様なもの）をかけて写経し、約五千百巻にのぼる経文を完成したのである。

一人でこれだけの大量のものを完成したものは少い。現在これ等の経文を一筆一切経と呼んでいる。現存するものは四千三百三十一巻で古く宗像神社及び興聖寺が保管していたが、明治初年、興聖寺が保管に当った。

この度の宝物館完成の暁には一括収蔵される予定である。

現在、重要文化財に指定されている。

辺津宮の狛犬

イ、石造一対……高さ二尺一寸横八寸、建仁元年奉施入の背銘がある。この石造りの狛犬には大陸的な匂がすると云われている。藤原の友房の奉納にかかる。

ロ、木彫一対……高さ二尺五寸二分、長さ三尺五寸、胴幅一尺二寸五分、木造にして刀法の豪快なる点鎌倉期の作品と言われている。突き出した鼻、睨めつけた眼、口をぐんと締め見入っている雄々しさ等雄大で力強い気魄を感じさせる作品である。

明治三十七年、国宝に指定

経筒

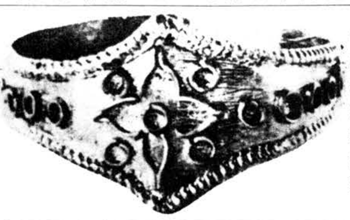
明治三十五年宗像町稲元の氏神八幡宮西側の急斜面を工事中発見されたもので、総高四十四糎、口径十一糎余、滑石製で筒身蓋、宝珠の三部から出来ている。下部は台座にはめ込む様になっているが、台座は発見されなかった。

筒身をめぐって銘文が刻んである。「仁平四年九月二日云々」とあるから今より約八百年昔の事である。銘文によれば現世の安穏と後世菩提供養の為に妙法蓮華経壱部八巻を納めた事がわかる。昭和十三年福岡県文化財保護委員会の認める処となり、翌十四年国宝に指定された。

其後宗像郡郷土館が建設されるに及びこの中に陳列されていた。

終戦後、文化財保護法が施行され、新国宝に指定された。宗像郷土館が戦後荒廃し、文化財が散逸する為、責任を以って管理する団体の必要性が叫ばれていたがこれ等の文化財も一括収蔵される。

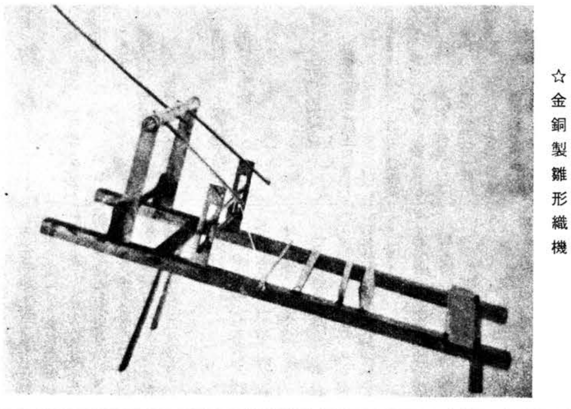
×　×　×　×


☆金製朱詰指輪

金製朱詰指輪

馬具類の一群中、破損した鉄製鞍に接して発見された。或いは鞍の上に安置していたものかもしれない。金製であるから腐蝕していないのはいうまでもないが、歪みも破損もしていない完形品である。大きさは内径一・八八—一・八六糎で前後がわずかに大きい。男子の指に適合するほど大きい。中央は菱形状に広くなり、周縁は巾一粍、高さ〇・五粍の蛇腹状隆起帯になっている。菱形状の正面は円鐶を中心に上下に開いた四花弁文様とし、花弁と花弁の中間にまた円鐶を配置して主文様を作っている。

さらに帯上には数個の円鐶が配列され、何れも朱がつめられている。指輪の古代祭祀品は殆どない。わずかに大島中津宮の古代祭場から銀製と銅製各一個が発見されたのみである。


☆金銅製雛形織機

金銅製雛形織機

今日でいう座機・下機、或は布機と呼ばれる類で、機台や属品は一揃となって、すべて原機にかたどって分解組立てが出来るようになっている。機台の長さ四八糎、前脚高さ一二・八糎、台外幅一六・七糎ある。木製機の加工は角や平の材で、さして技巧を要しないように考えられるけども、これを金属器に写したこの場合は細かい心くばりが随所に見られる。当時の金工が誠実に念入りに製作したもので、全面渡金が施されている。雛形ではあるが付属品が揃っているので現在でも織ることが可能である。

これらの織機が皇大神宮の神宝として奉献されたことは、例えば大神宮儀式帳に「金銅一具云々」によってわかり、平安初頭の出現を物語る。現在神宮にはこの類品はなく、近世の大形木製機が奉納されていると聞く。当社の雛形機は失われた神宝を再現させてくれる貴重な手がかりである。現物資料としては類のない古いものであろう。